

みんなで語る会報告書

- 開催日時：平成27年10月20日（火）（19時00分～20時30分）
- 開催場所：中央公民館
- 参加者数：【市民】21人、【市職員】市長ほか14人、【総計】36人

○ 会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 意見交換
- 4 地域代表あいさつ
- 5 閉会

○ 意見交換の内容

【市民】

「指宿市温泉資源の保護及び利用に関する条例」（以下「温泉条例」という。）は、パブリックコメントの募集を行っていたが、審議会の内容などについても情報公開をしてもらいたい。

<総務部参与>

温泉の保護と活用を図るための温泉条例を昨年3月に制定し、地熱開発参入事業者の事業計画等を審議する「調和のとれた地熱活用協議会」を設置した。この協議会では、専門家、地元の代表、旅館業を営む方、配湯をされる方等が、地熱開発参入事業者の事業計画について審議している。その中で自由な意見が出るよう、議事の開示は控えている。

<市長>

審議会の委員に対して色々と配慮しなければならないことがあるが、今後、可能な限り開示できるよう取り組みたい。

【市民】

「指宿市版まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、地熱について取り上げられていない。市が直接、地熱開発を行い、発電事業により安い電力を供給すれば、首都圏からも企業が来ると思う。

<市長>

地域の宝である地熱については、皆さんの理解を得られるような取組をしたい。

【市民】

最近、不審者の情報が非常に多い。市民にも情報を周知し、まち全体で子どもが育ちやすく、安心して住めるまちづくりをしてもらいたい。また、パトカーでの見回りを強化するよう、市から指宿警察署に依頼してほしい。

<市長>

学校、教育委員会だけでは、子どもの安心・安全を守ることはできない。青色防犯パトロールのほか、警察とも連携しなければならない。それと、子育てがしやすい環境づくりをするため、乳幼児等医療費助成制度の充実や、指宿医療センターに九州大学から産科医を派遣してもらっている。子育てがしやすい環境づくりには、行政・地域をあげて取り組んでいかなければならない。

<教育長>

不審者による声かけ事案等が発生した場合、警察、学校、そして教育委員会に情報が寄せられる。警察に情報が入ると、青少年育成センターにもすぐに連絡がいき、青パト等による臨時パトロール

を実施するなど対応をとっている。

学校としても、保護者の方々への通知もれがないように努めているが、各学校の学校応援団というボランティアの方々に登下校の時間帯にパトロールをしていただいている。

【市民】

不審者による声かけ事案には、どのような事例があるのか。

<教育長>

下校途中の子供たちに、「お菓子をあげる」、「道案内をしてくれないか」などの声かけ事案があるようだ。学校の方でも、110番連絡の仕方や、大きな声を出して近くの110番の家に駆け込むといった訓練を毎年行っており、今のところ被害は出ていない。

<市長>

声かけ事案は他の地域でも多くあり、悲惨な事故も起きている。警察、地域防犯組合や各学校のPTA専門部とも連携を図り、みんなで子供たちの育つ環境の安全を守っていきたい。色々と問題点がわかれば、学校や公民館等とおして教えていただきたい。

【市民】

柳田校区には、公共の公園が非常に少ない。永田の休耕田を活用して、東方の住民をはじめ近隣の住民が交流できるような公園の造成を以前も要望したが、どのようになっているのか。

<農政部長>

耕作放棄地の状態であるため、市農業委員会と耕地林務課とで対応できないか検討中である。平成7年頃、245人の地権者を対象にアンケートを行ったところ、回答者は111名で約45.3%の回収率であった。そのうち、田畑の基盤整備を希望する方が50人、希望しない方が51人、わからないという方が10人いた。未回答の方々も、基盤整備等の土地活用に興味がなかったと判断せざるを得ない。やはり、最終的には土地所有者の同意が必要になる。

<市長>

東方地区の真ん中にあり、非常にいい場所である。農村公園や親水公園を造りたいという思いは強い。しかしながら、地権者の同意が必要となるため、何とかする方法がないか検討中である。丹波校区では、小田墓地公苑を造った際に、地区墓地の跡地を公園として整備した。東方地区でも、同様の整備ができないかという考えもある。引き続き、公園整備が実現できるよう努力したい。

【市民】

道路の状態が悪い。宮久保線の指宿高校前から揖宿神社の近くまでが荒れているので、何とかしてもらいたい。

宮上玉利線は通学路等も兼ねているため、整備促進の陳情書を地域住民と出そうとしているが、地権者の調査もなかなか進まない上、閲覧料も必要となる。地権者から道路整備に同意する印鑑をもらうためにも、どのようにすれば行政としては早く対応できるのか。

<建設部長>

道路の拡幅改良を行うには、地権者の同意が必要である。道路全域ではなく、同意が得られた部分から先に整備を進める方法もあると思う。土木課としても、地域と協議をしながら道路整備に懸命に取り組んでいきたい。

<市長>

宮上玉利線と柳田迫田線の拡幅改良は計画に入っており、地権者との協議を進めている。地域で取り組むことで地権者の同意も得られるかもしれない。地域と一緒に進めていきたい。

【市民】

下地頭所から野間川にかかる道路は北指宿中学校の通学路であったが、荒れているため水溜りができやすく、民家の庭先を通る生徒も出るなど問題が生じたことから、今では通学路としての使用が禁止され回り道をしている。雨が多い日には通行人も困っているため、市道にして舗装をするなど整備してもらうことができないか。また、整備を進めるために地権者の同意を地区で取りまとめ

ようとしているが、地権者の情報を提供してもらうことはできないのか。

<建設部長>

市民の安心・安全を守るためには、里道の拡幅工事は必要であると思う。そこで館長にも、必要な同意をもらうための協力をお願いしているが、まずは所有者等がわかる範囲内で同意をとってほしい。市としても、説明会等を行いながら地元の同意をもらえるよう努める。所有者の情報等については、市が調査し皆さんと取り組んでいきたい。今年は二反田川石ヶ崎線の測量設計を行い、来年度以降、工事に入る予定である。

<市長>

地域の安全、通学上の安全は大切なことである。もう一度、小・中学校のスクールゾーン委員会等で環境診断・安全点検を行い、地域と一緒に積極的に取り組んでいきたい。宮上玉利線については、離合ができるような所など、できる所からしなければ難しい面があるかもしれない。

【市民】

柳田校区の山手側の地区は、ほとんどが県の土砂災害指定地域になっており、南迫田地区公民館も指定地域内にあるため、一時的な避難所として利用できない。柳田校区公民館が避難所として指定されているが、歩いての移動は距離的に大変である。近くの南薩地域振興局を、避難所として利用できないものか。

<総務部長>

柳田校区の一次避難所には、校区公民館と市役所を指定している。南薩地域振興局や学校施設についても、大規模災害時には二次避難所、三次避難所として指定するようになっている。現在、地域防災計画の見直しをしており、避難所等についても検討していきたい。

<市長>

南薩地域振興局についても、その中で検討していきたい。お年寄りのためにも、身近な所に安全な避難場所が必要である。他の地区はどうか。

【市民】

温湯地区は、竹元病院、尾辻建設、吉本葬祭の3か所に依頼している。

<市長>

災害に対する住民の安全という面から、避難場所はしっかりしないといけないと思う。北十町地区はどうか。

【市民】

北十町地区は、校区公民館と指宿高校を使用している。

<市長>

高野原地区はどうか。

【市民】

高野原地区は、校区公民館、市役所、南指宿中学校を使用している。

<市長>

木下地区はどうか。

【市民】

木下地区は、校区公民館を使用している。

<市長>

二月田地区はどうか。

【市民】

二月田地区は校区公民館を使用しているが、スーパーにもお願いしていきたい。

<市長>

今年の長雨等を考えると、避難所は非常に大切であり、事前に住民に周知しなければならない。

市危機管理課を含めて、身近な避難所はどこにあるのか、無い場合はどのように移動するのか考えていきたい。南十町地区はどうか。

【市民】

南十町地区の避難場所は、市が指定している中央公民館と柳田校区公民館である。

<市長>

避難場所の問題は、大切な課題である。今日の話合いの結果を持ち帰って検討したい。

【市民】

地区未加入者のごみ出しのマナーが悪い。転入者に対して地区に加入するよう勧誘しているが、半分程度しか加入してもらえない。転入者に対して、もう少し行政からも働きかけてもらいたい。

<市民生活部長>

市市民協働課と市環境政策課でも、転入者に対して地区に加入するよう勧誘しているが、なかなか効果が上がらない。地区加入は任意加入であるため強制はできないが、今後も加入促進に努めたい。

また、新たにマンションを造る建築主にも、地区加入に協力してもらえないかお願いしている。同様に、市営住宅の入居者に対しても加入促進に努めたい。

<市長>

ごみ出しのマナーなど、色々な問題がある。みんなで取り組んでいかなければならない。今日の話合いの結果を持ち帰って検討したい。

【市民】

消防の無線がデジタルに移行し、火事が起きた場合にはメールで連絡が来るようになっている。しかし、未登録の団員もいるため、携帯会社を通じてメールの受信登録をすることはできないのか。

<総務部長>

これまで、火事等の際の消防団員出動は、防災無線で行っていた。現在では、その前に各消防団員全員に対し、詳細が記された一斉メールを送信している。その後、電話による通知と、防災無線による周知を行っている。ただし、一部の古い機種の手機や未登録の団員については、通知が漏れている。未登録の団員については、消防組合に相談しながら把握して、市危機管理課等が個別に対応していきたい。

【市民】

営農をしており、昨年、今年と「もうかるネットワーク」と「起業塾」の二つに参加している。市が開催するセミナーに参加し、色々な知識を得ることができ感謝している。今後は、生産者自身も、行政とともに都市部等で商品PRをすることができないものだろうか。農業だけではなく、商業、工業等、色々な事業所が一緒になってまちの魅力を伝えることができれば、観光や移住の面でも効果があると思われる。色々な課が、一緒になってイベントができるようになればよい。

<市長>

千葉県のエオンでトップセールスを行った際に、指宿の砂むしは知られているが、ソラマメやオクラは指宿と結びつかなかった。とても貴重な意見だと思う。市農政課も努力している。

<農政部長>

指宿の農産物や特産品等を、一緒になってPRしていきたい。

<産業振興部長>

昨年度は、全国19か所でPR活動を行い、商談会も10回ほど行った。今年度から、ふるさと創生の事業を、指宿の知名度を上げようとインターネット上で8月1日から実施したところ、観葉植物、焼酎、さつまあげ、つげ櫛等が非常に良い売上げであった。また10月からは、ふるさと納税の返礼品の贈呈も始まった。今後も、指宿の素晴らしい特産品を全国に向けてPRしていきたい。

また、今年度から、商工会議所を主体として「創業塾」という様々な研修会も行うので、参加しながら活動の質を上げていただけたらと思う。行政としても、皆さんと一緒に頑張っていきたい。

【市民】

指宿では、移住関係ではリフォームの補助制度があるが、もう少し具体的なものがあると良いのでは。観光の面では、ショートステイ型の何泊かできるような補助等があれば良いと思う。住宅補助のようなものはないのか。

<総務部参与>

今年の4月から定住促進制度の拡充を行い、対象者の年齢も65歳に引き上げ、地域も指宿全域に広げた。また、今月中に地方創生の総合戦略をまとめようとしているが、その中でも空き家バンクの創設や、空き家のリフォームや空き店舗の活用等についても検討中である。

<市長>

県内で成功している所も1、2あるので、勉強をして制度として取り組んでいきたい。

【市民】

昭和南海地震の際の指宿市内における被害状況がわかれば、情報公開をすることで将来の南海地震について予測しやすいのではないか。

移住者に対して、自治会への加入を強制しなくても良いと思う。積極的に地域が受け入れる状況をつくるのが大事だと思う。

<総務部長>

巨大地震が想定される南海トラフ地震については、津波高、想定浸水区域、被害想定等が平成24年に国から示された。指宿市においては、平均の津波高は4m、最大で5m、浸水面積が350haとなっており、うち、100haが1m以上の浸水が起り深刻な浸水被害があると予想されている。市の方でも、「海拔〇m」という表示をしているので参考にしてもらいたい。市役所で海拔8mである。最大震度は5強と見込まれている。津波高が1mの場合の到着時間は約69分後となっているので、防災無線等で知らせることで対応できるのではないかと思う。

<市長>

自然災害、特に地震については、万全の備えをしながら、改めて市民に情報提供をするようにしたい。

【市民】

場所によって、地震の揺れは違うと思う。実際に1946年の昭和南海地震の情報があれば活かしてもらいたい。

<市長>

ぜひ、そこは調べてみたいと思う。

<総務部長>

それらも含めて、市ではハザードマップを作り全世帯に配付してあるので参考にしてほしい。